

高校生たちの熱い夏

7月下旬から8月上旬にかけて開催されたみやぎ総文（小倉百人一首かるた）、南東北インターハイ（少林寺拳法）。全国から1,000人を超す高校生が本市に集い、熱戦を繰り広げました。

また、大会期間中は、塩釜高校をはじめ、県内の高校生たちが、選手・関係者の出迎え、司会進行、会場整備など、「おもてなし」の心で大会運営を支えてくれました。

☎生涯学習課インターハイ推進室 ☎355-8770

小倉百人一首かるた

7月31日(月)～8月2日(水)



選手宣誓は宮城県チーム主将の柴田千佳さん。「決勝トーナメントには進めなかったけど、チームみんなで頑張り、やり切ったのですっきりした気持ちです」と話してくれました。



大会オリジナルのトートバック。全出場校名がプリントされています（広島県チームの皆さん）



七夕飾りを前に記念撮影（宮崎県チームの皆さん）



本塩釜駅と塩釜駅には総合案内所が設置され、宮城県の高校生がお出迎え



惜しくも決勝進出はなりませんでした、最高の演武を披露した塩釜高校の選手たち（女子団体演武）



川村剛史さんと大内玲菜さん（塩釜高校）が選手宣誓

少林寺拳法

8月5日(土)～7日(月)



©インターハイ



2階席は各県の応援団、市民の皆さんで埋め尽くされました



横断幕で、東日本大震災のときの全国からの支援に感謝を表しました



大会を支えてくれた塩釜高校の皆さん



全国の壁が高く、本領発揮できませんでした。来年は後輩が結果を残してくれると思います。他県の選手と交流ができて楽しい大会でした。
(塩釜高校・川村主将)